

# 新型コロナウイルス感染症の 県内発生について その4

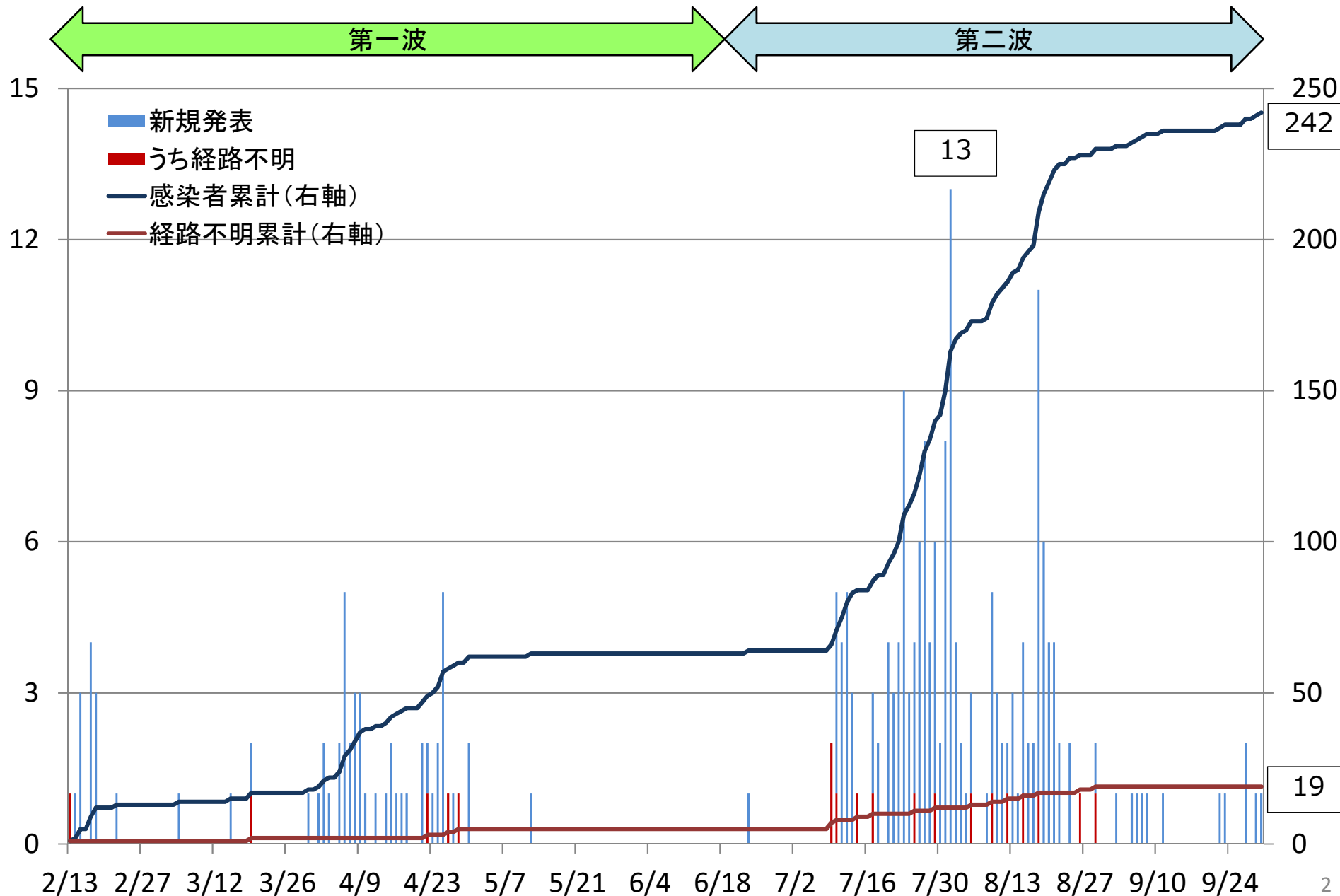
和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2020年10月



# 和歌山県の感染者の推移

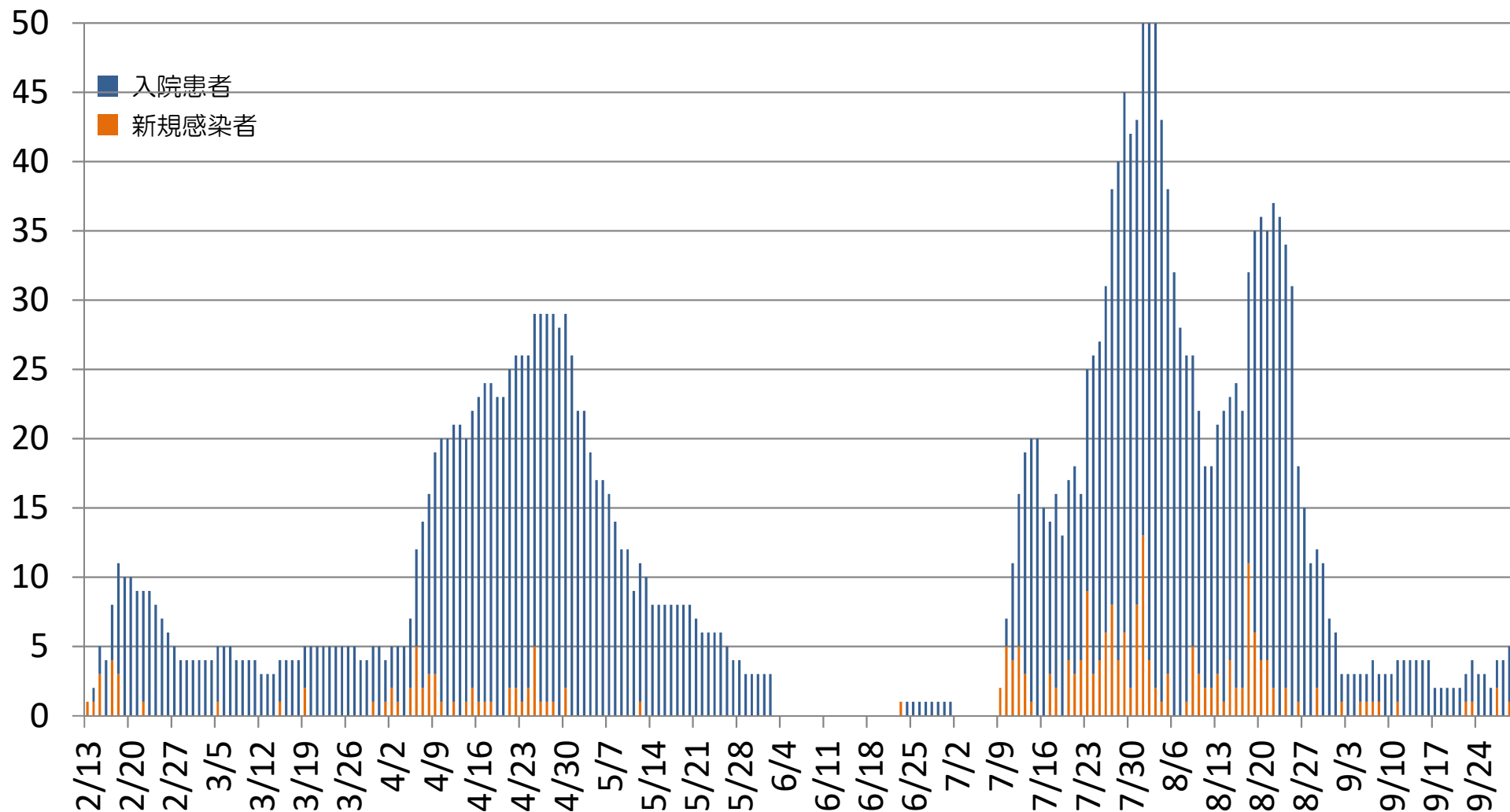
令和2年9月末まで  
(242件)



# 和歌山県内の入院患者・新規感染者の動向

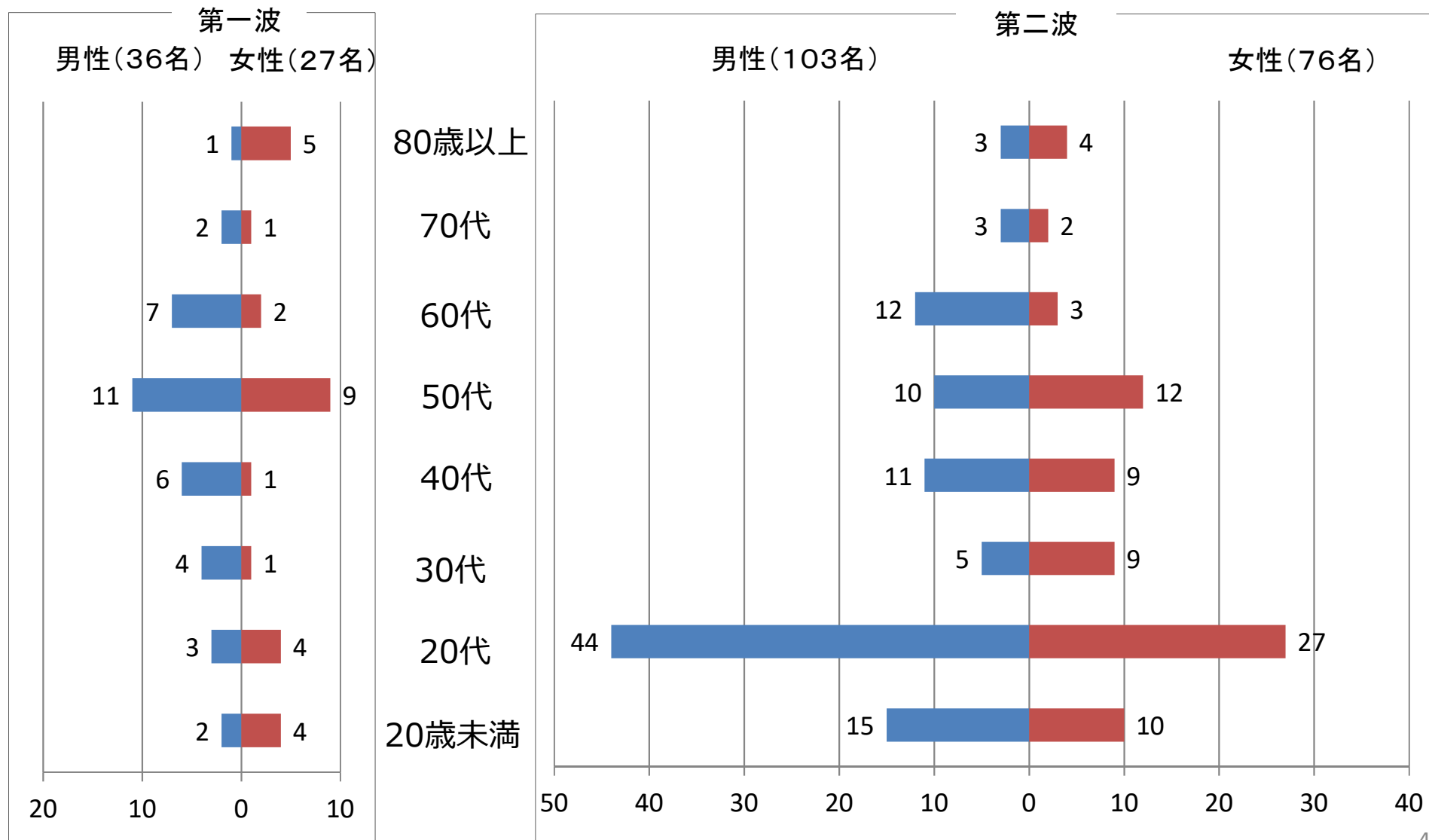
和歌山県内の最新の感染動向 (令和2年9月30日 13時現在)

9月末の入院患者数6名



# 年代別・性別感染者数 (9月末現在 n = 242例)

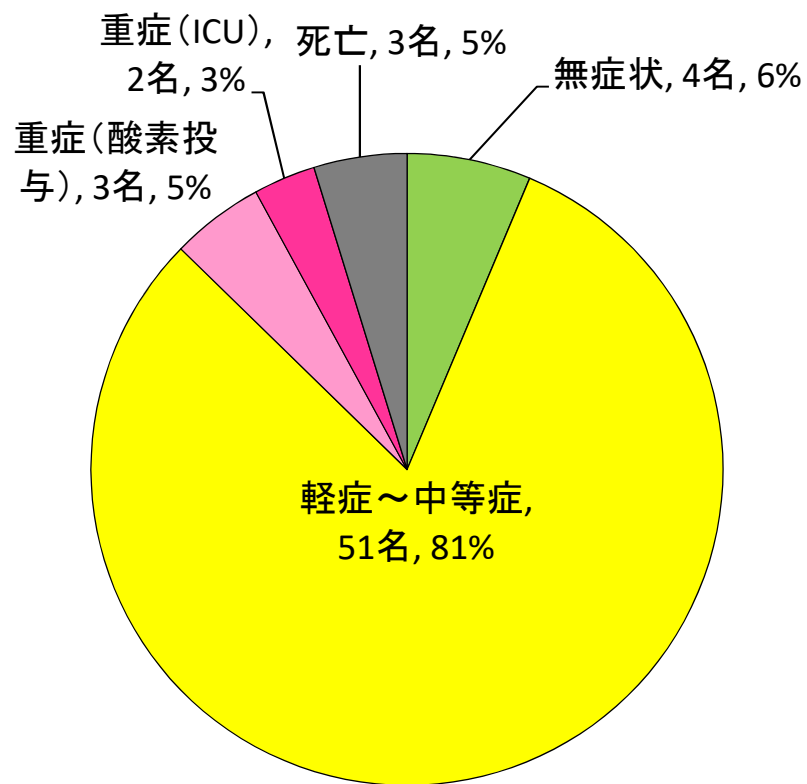
- 感染者の性別では、男性の方が女性より多い。年齢では20代が最も多い
- 第一波は50代が感染の中心であったが、第二波は20代が感染の中心となっている



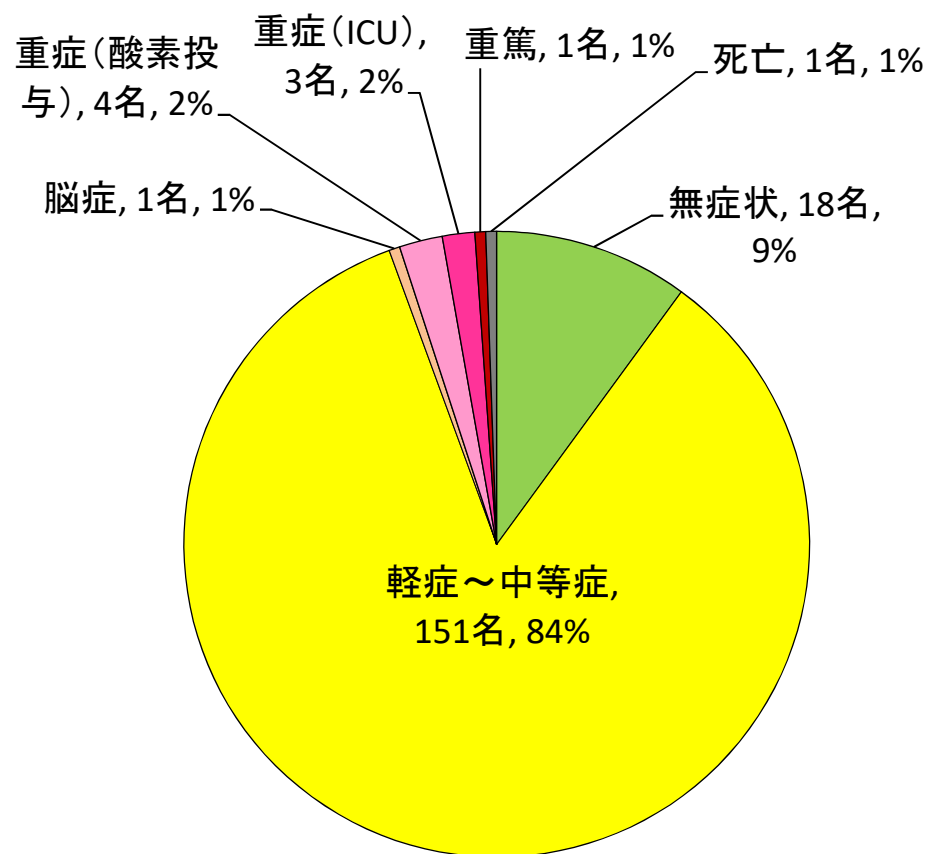
# 重症度 (9月末現在 n = 242例)

- 感染者の約8割以上が軽症～中等症となっている。無症状者は約9%
- 一方、感染者の約7%が重症以上で、死亡者は4名(約1.6%)
- 第二波では、第一波より重症者の割合が少なく、無症状、軽症～中等症の割合が多い

第一波(63名)



第二波(179名)



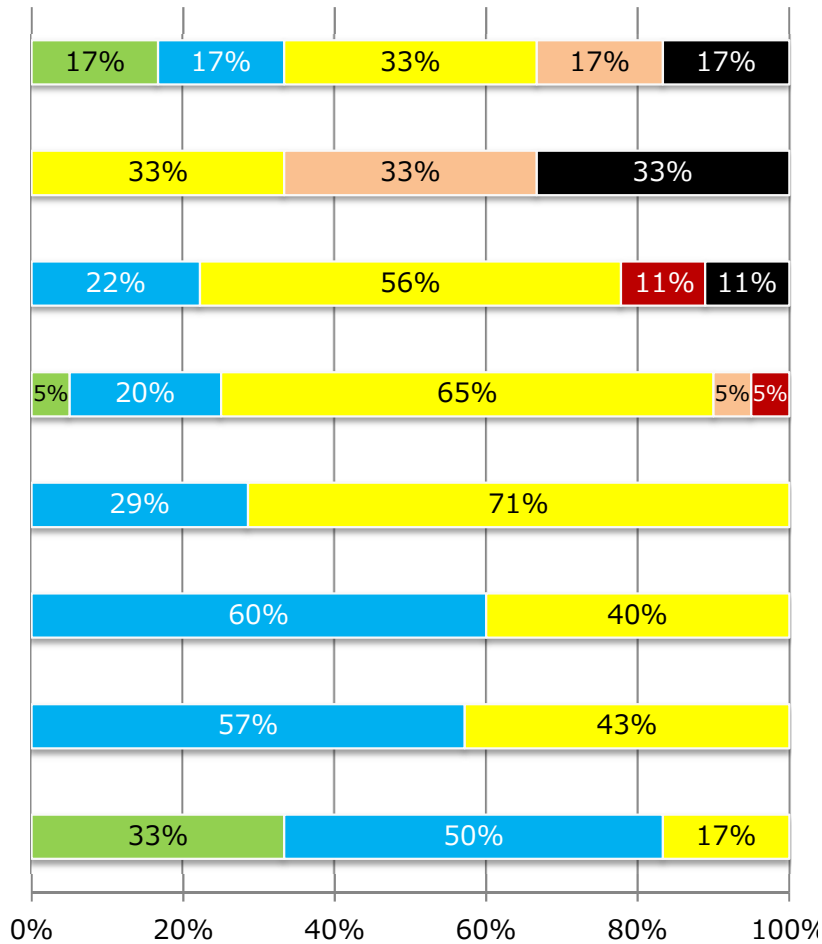
第二波には入院中の者を含む。

※酸素投与が必要になれば病状の変化に一層注意が必要なことから、本県では、酸素投与が必要な場合は“重症”と分類している

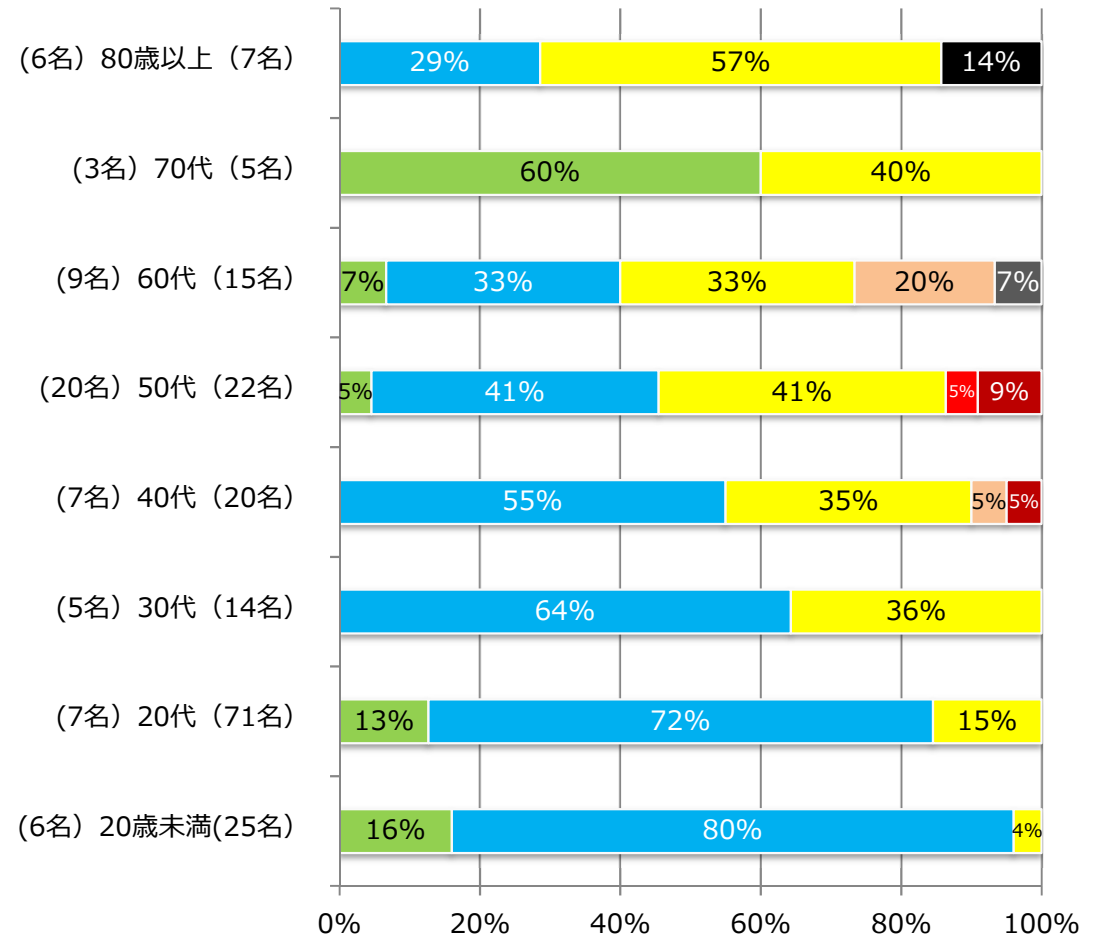
# 世代別重症度 (9月末現在 n = 242例)

- 世代を問わず、第二波では軽症者が多く、肺炎を併発した者が少ない
- 特に、中高年層では重症化する者が多くなっていくため注意を要する

## 第一波 (63名)



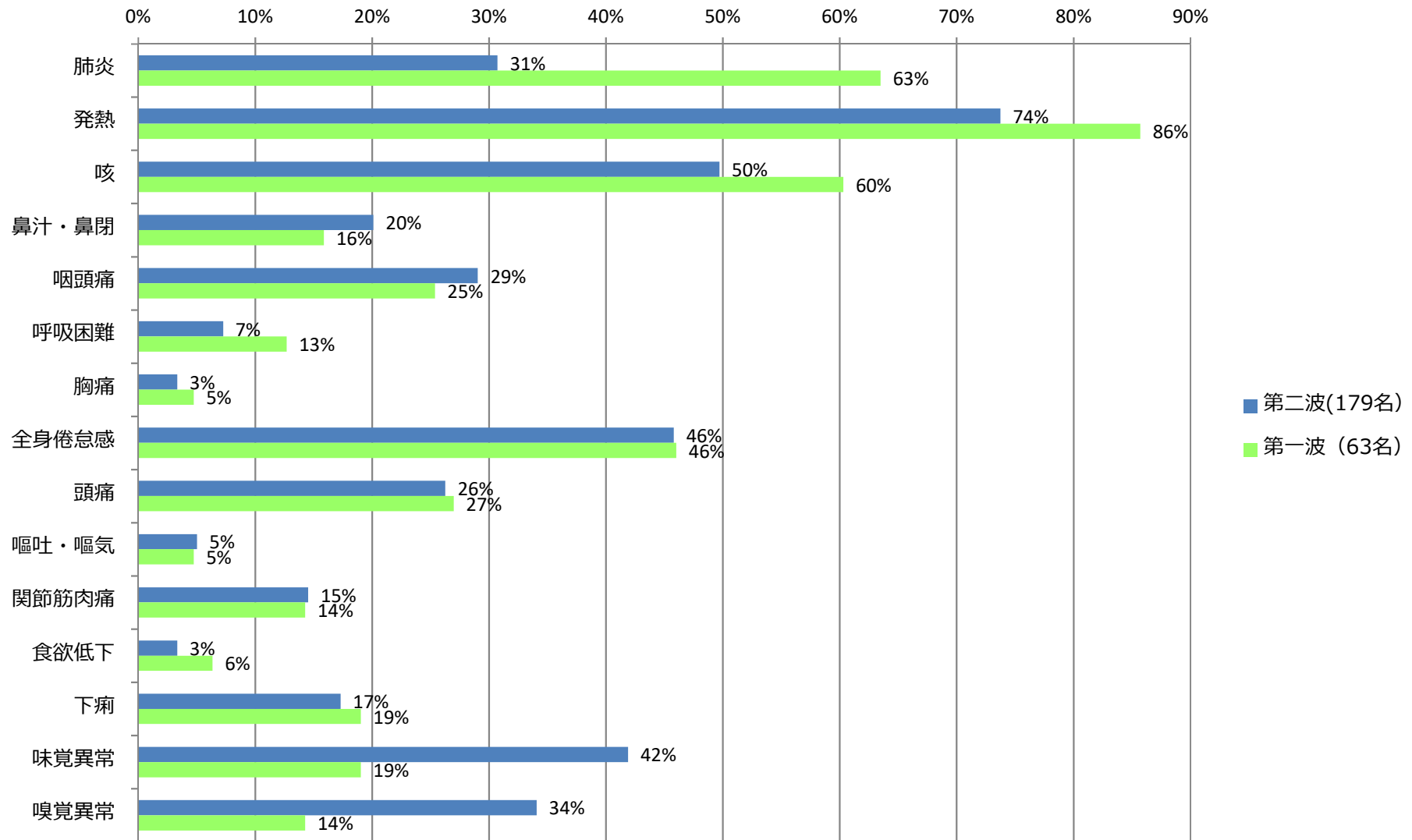
## 第二波 (179名)



■ 無症状 ■ 軽症 ■ 肺炎 ■ 重症 (酸素) ■ 重症 (脳症) ■ 重症 (ICU) ■ 重篤 ■ 死亡

# 症状 (9月末現在 n = 242例)

- 症状では、発熱、全身倦怠感、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常が多い
- 第一波では、肺炎を併発した者が第二波の約2倍
- 一方、第二波では、味覚・嗅覚異常を訴える者が第一波の約2倍



# 陽性判明時症状と入院後症状

(9月末現在 n = 242例)

- 陽性判明時無症状であった55名のうち、退院までに無症状のままであったのは20名（36%）であったのに対して、肺炎以上の重症度となったのは、14名（25%）

→陽性判明時に無症状であっても、病状の悪化に備え、入院による医学的管理に置く必要

当初症状	入院後症状	合計	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
無症状	無症状	20	5	8			2	1	3	1
	軽症	21	2	10	1	3	4	1		
	肺炎	12		3	1	1	2		1	4
	重篤	1						1		
	死亡	1								1
			55	7	21	2	4	8	3	4
症状あり	無症状	2	1	1						
	軽症	105	21	45	11	10	9	6		3
	肺炎	64	2	11	6	11	20	10	2	2
	重症（酸素投与）	7				1	1	3	1	1
	重症（脳症）	1					1			
	重症（ICU）	5				1	3	1		
	死亡	3						1	1	1
		187	24	57	17	23	34	21	4	7
合計		242	31	78	19	27	42	24	8	13

※9月30日までの陽性者



# 濃厚接触者等の感染状況

(9月末現在 n = 242例)

当初判明



1人  
(107人)

検査陽性

検査数  
(2,590人)

二次感染



0.9人  
(93人)

検査陽性

検査数  
(1,233人)

三次等感染



0.4人  
(44人)

二次・三次等合計



1.3人  
(137人)

※県外公表のため  
当県の感染者数に  
計上していない2名を  
含む。

内訳



同居家族 0.3人 (36人)  
その他友人等 0.5人 (57人)

内訳



同居家族 0.2人 (24人)  
その他友人等 0.2人 (20人)

内訳



同居家族 0.6人 (60人)  
その他友人等 0.7人 (77人)

検査者数に  
対する陽性率  
**17.4%**

陽性者数 36  
検査件数 207

検査者数に  
対する陽性率  
**2.4%**

陽性者数 57  
検査件数 2,383

検査者数に  
対する陽性率  
**15.9%**

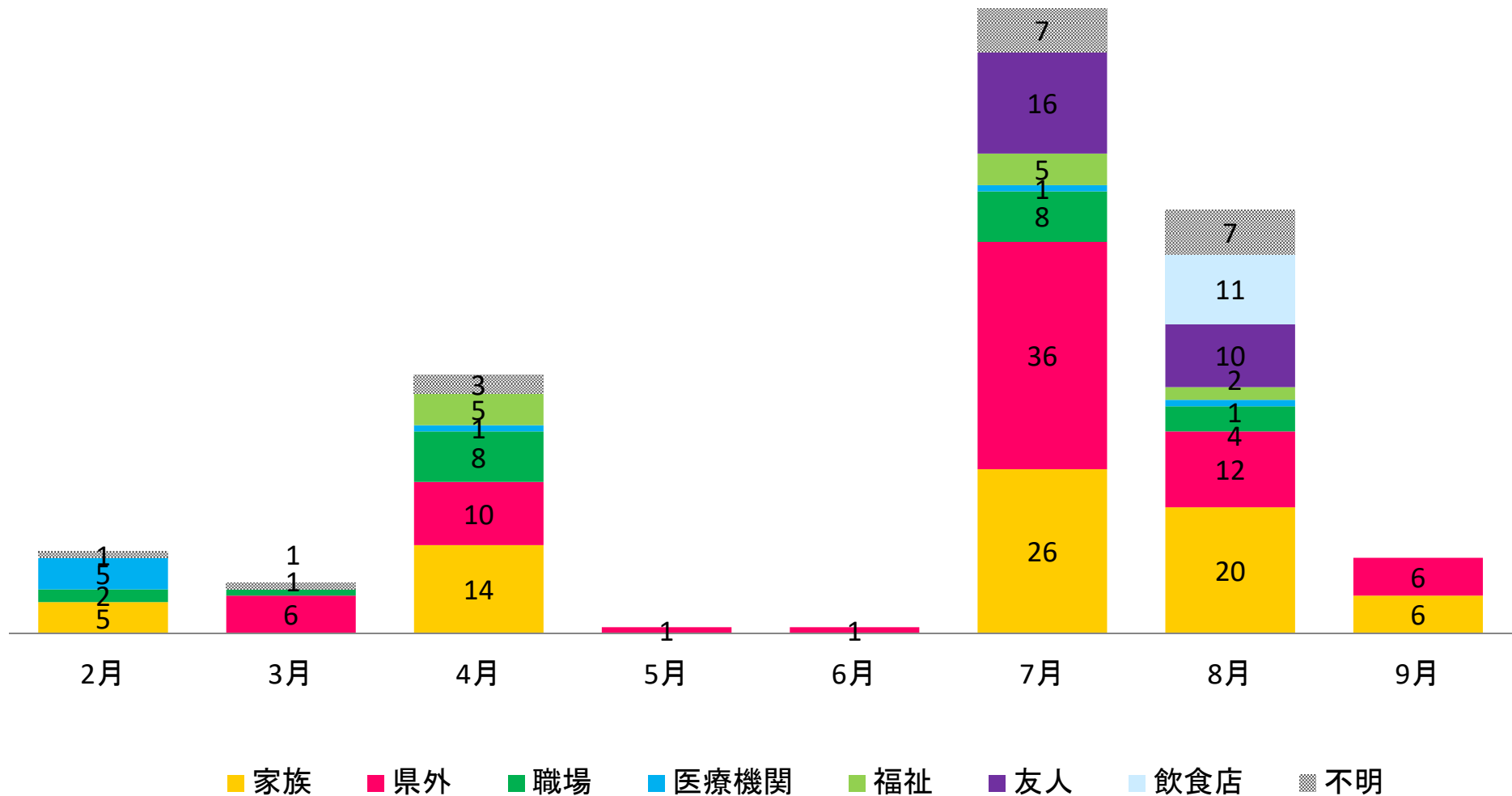
陽性者数 24  
検査件数 151

検査者数に  
対する陽性率  
**1.8%**

陽性者数 20  
検査件数 1,082

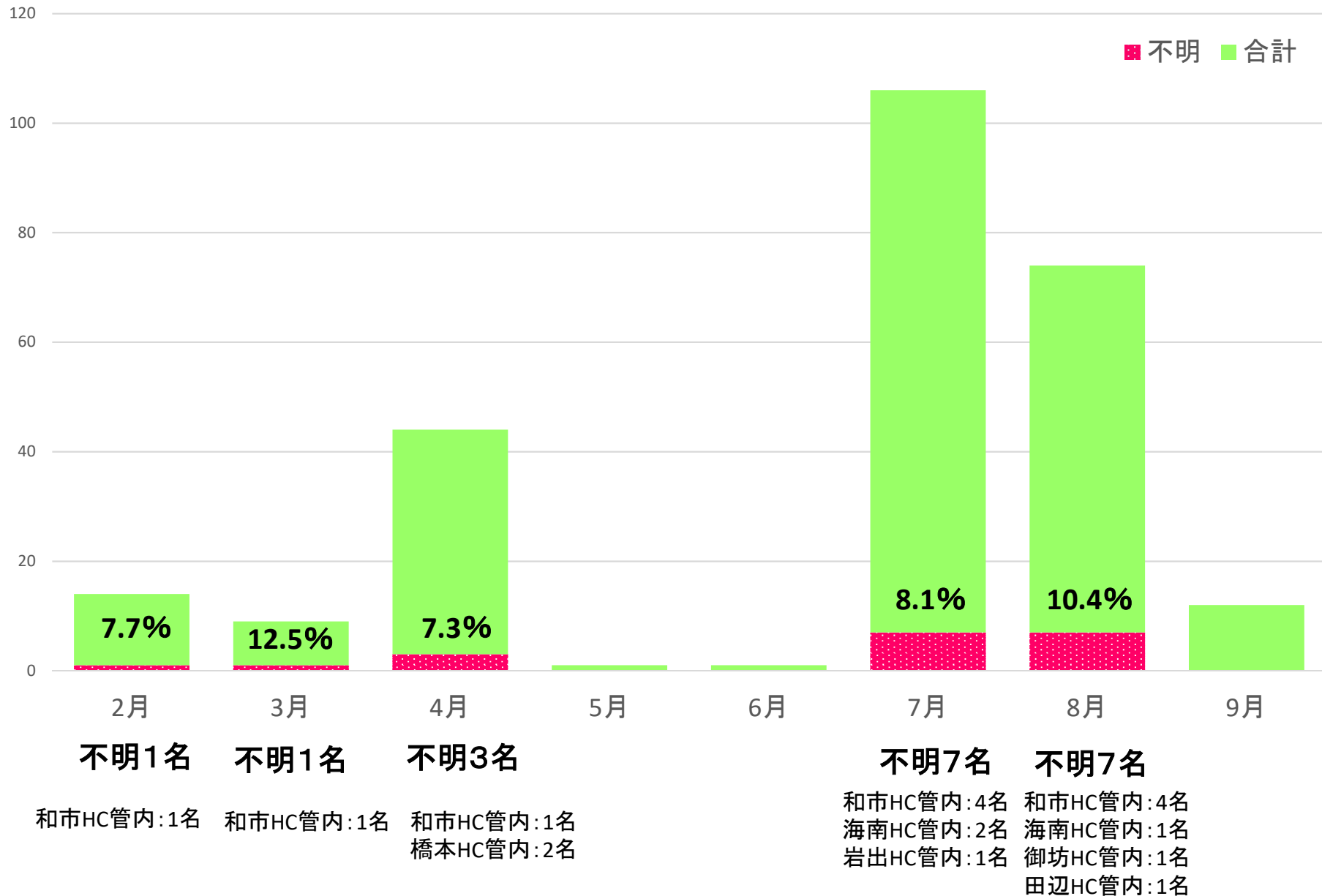
※県内での検査に限る。四捨五入処理のため、計算が合わない部分がある。

# 感染経路 (9月末現在 n = 242例)



本県では、2月に院内感染で始まり、3月から県外の持ち込みが多くなり、7月も県外からの持ち込みが最多、8月は家族内感染が最多となり、依然として県外からの持ち込み及び家族内感染が多くを占めている状況である。

# 感染経路（原因不明の割合） （9月末現在 n = 242例）



# 新型コロナウイルスのゲノム解析（県分）

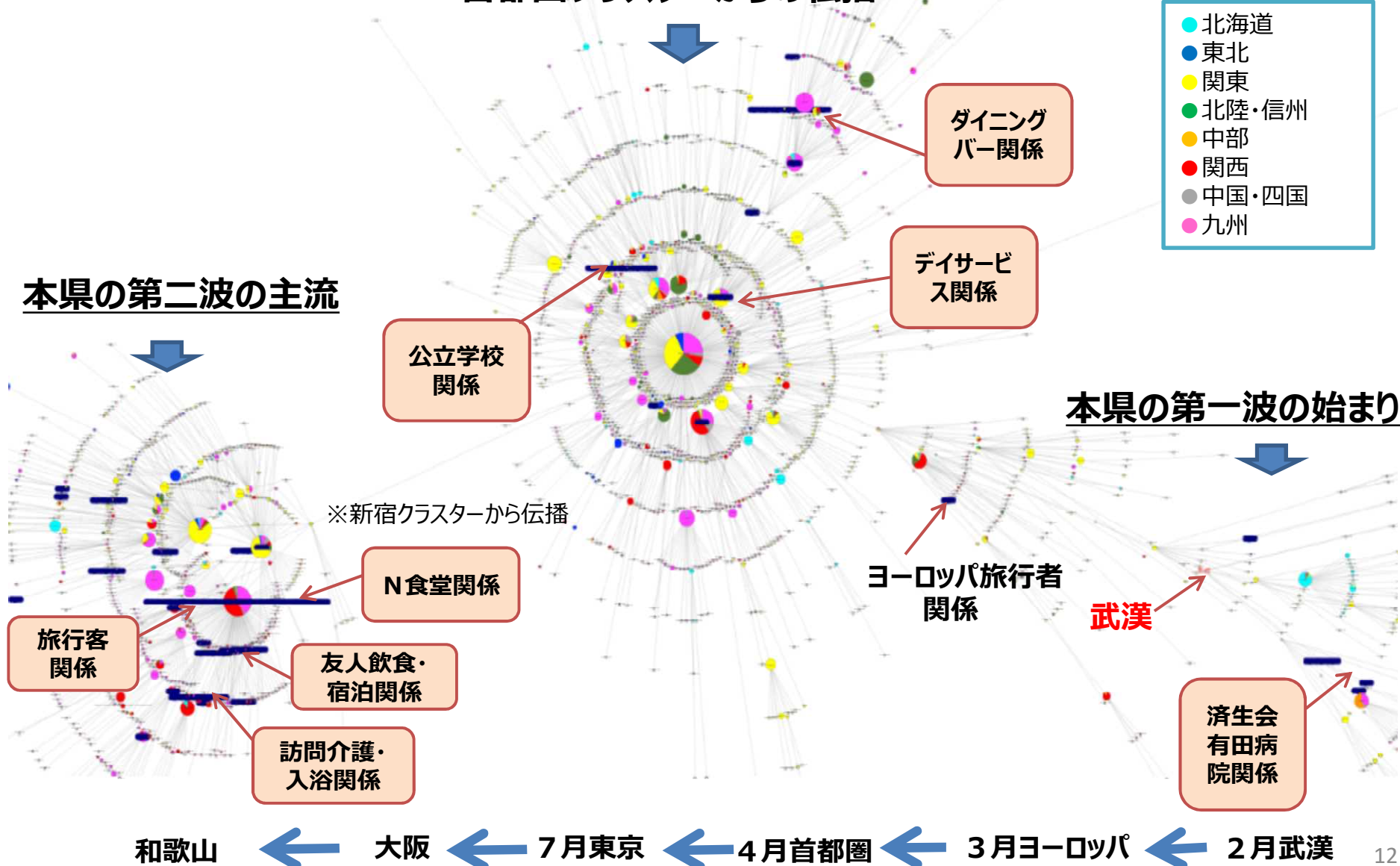
令和2年8月27日現在

※図中の濃い横線が県内感染者の遺伝子解析結果を示す

## 本県の第一波の主流 首都圏クラスターからの伝播

国立感染症研究所  
病原体ゲノム解析研究センター提供

- 北海道
- 東北
- 関東
- 北陸・信州
- 中部
- 関西
- 中国・四国
- 九州



和歌山 ← 大阪 ← 7月東京 ← 4月首都圏 ← 3月ヨーロッパ ← 2月武漢

# コロナ感染者の鼻咽頭と唾液のPCR検査結果の比較（和歌山県）

## 1. 検査結果

令和2年9月30日までの検査結果

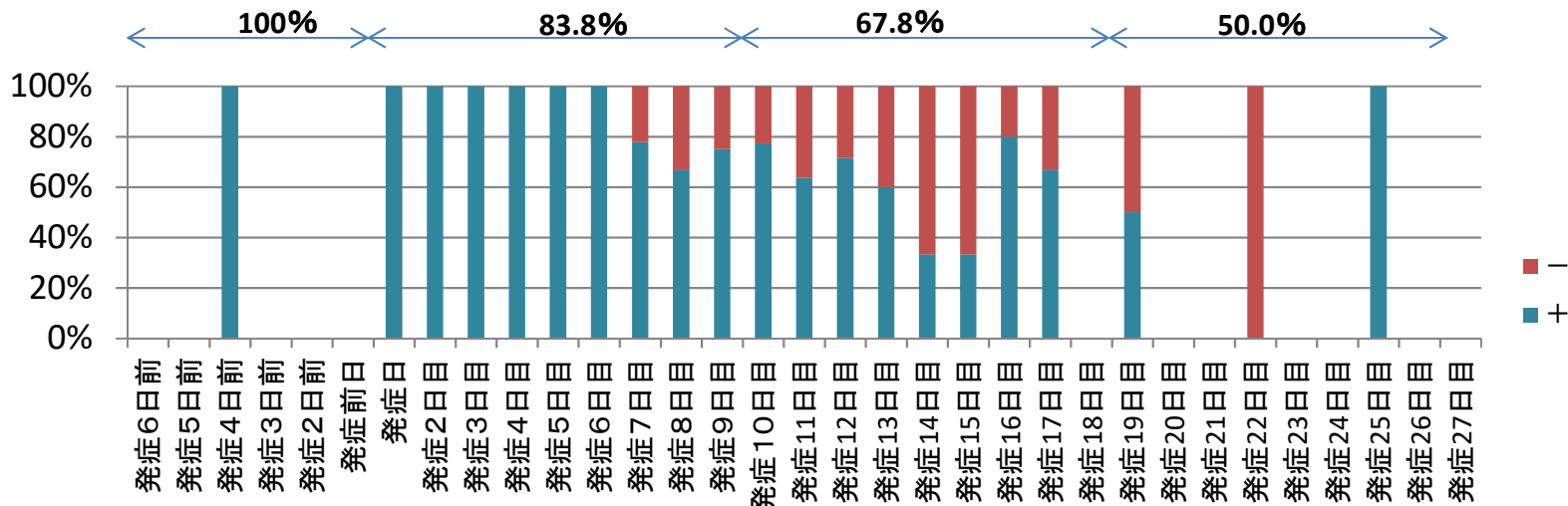
① 全例

		唾液 検査結果			約 73% 一致率 陽性
		陽性	陰性	合計	
検査結果	鼻咽頭	陽性	74	27	101
	陰性	11	17	28	
合計		85	44	129	

② 発症日から  
9日目までの結果

		唾液 検査結果			約 84% 一致率 陽性
		陽性	陰性	合計	
検査結果	鼻咽頭	陽性	31	6	37
	陰性	4	6	10	
合計		35	12	47	

## 2. 採取日による鼻咽頭と唾液の陽性一致率



※新型コロナウイルス感染症と診断された事例について、診断時は鼻咽頭ぬぐい液のみの場合も唾液のPCR検査を追加して実施し、鼻咽頭と唾液を同じ日に採取したものについて検討した。

- ・鼻咽頭と唾液のPCR検査の陽性一致率は約73%である。国が認めた唾液検査対象日では一致率は約84%。
- ・発症6日目までは陽性一致率は高いが、7日目以降は唾液検査で陰性になる事例が多くなり、陽性一致率は低下。<sup>13</sup>

# 家族内の感染予防について

★同居家族では、食事を一緒にしたり、会話をしたりと同じ場所・空間に長時間居ることが多く、またお風呂やトイレなどを共有することになり、感染が広がりやすくなります。

★新型コロナウイルスは、感染者の鼻咽頭、唾液、便などに存在します。  
家族に風邪の症状の人がいたら、コロナかもしれないと思って以下の点に特に気を付けてください。

症状のある人は家の中でもマスクをする



症状のある人は別の部屋で過ごす



ただし、時々見守ってあげてください

時々部屋の換気をする



症状のある人は家族とは別の場所や時間をずらして食事をする



症状のある人がお風呂に入る場合は、家族が入ってから最後に入る

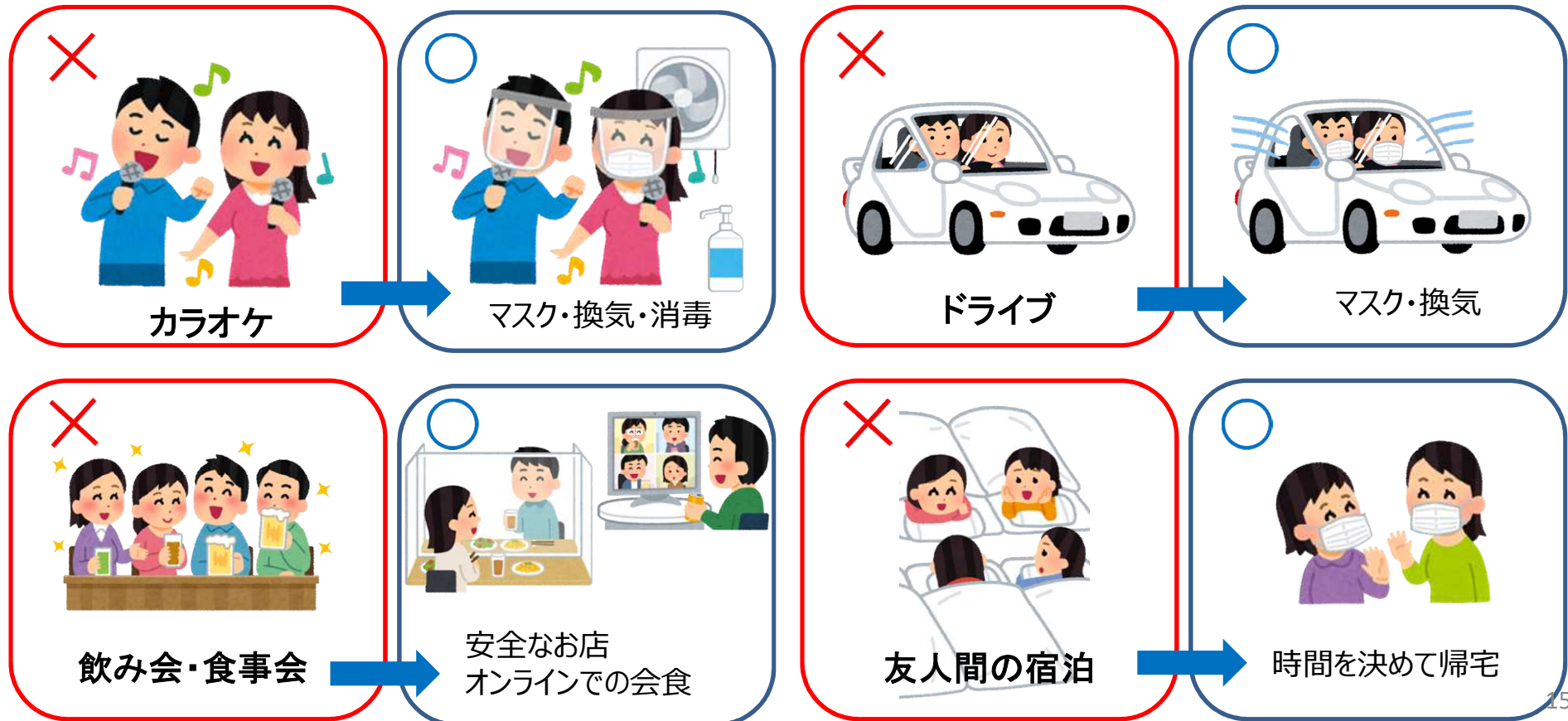


家族みんなでこまめに手洗いをする。特に食事前、トイレ後、外出から帰ったら、石鹸、流水でよく洗う



# 友人間の感染予防について

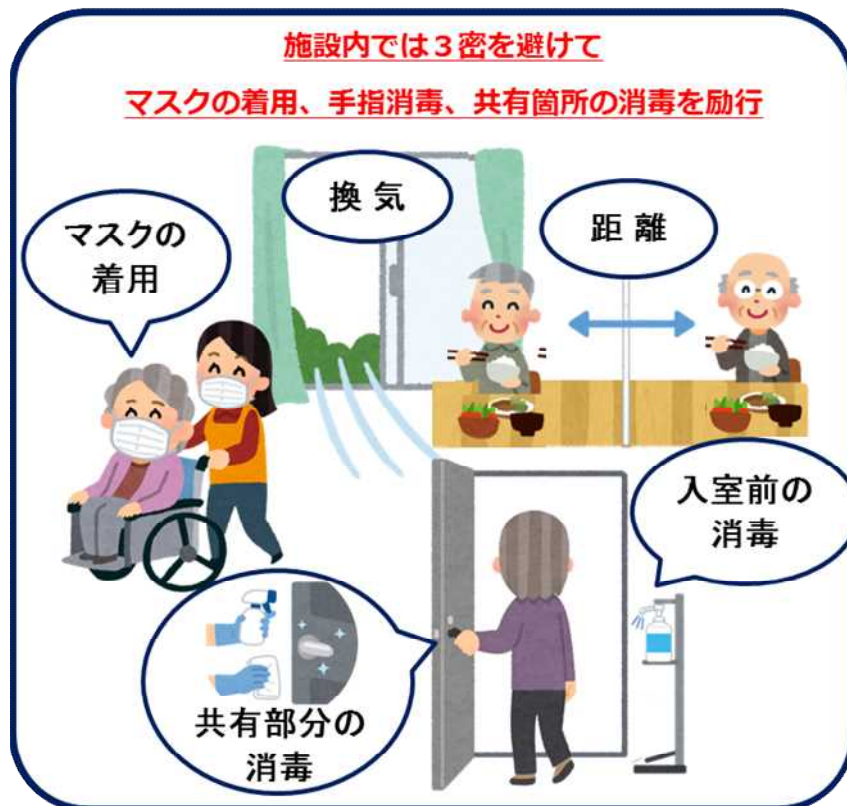
- ★友人同士が集まって、お酒を伴う食事を長時間一緒にしたり、カラオケやドライブをしたことで、集団感染に繋がっている事例があります。また、友人宅等に宿泊すると、同じ場所・空間に長時間居ることになり、感染する可能性が高まります。
- ★新型コロナウイルスは、感染者の鼻咽頭、唾液、便などに存在します。無症状で経過し、唾液などにウイルスを排出し、気がつかないうちに、人に感染させていくことがあります。地域の感染拡大を防止するため、以下の点に特に気をつけてください。



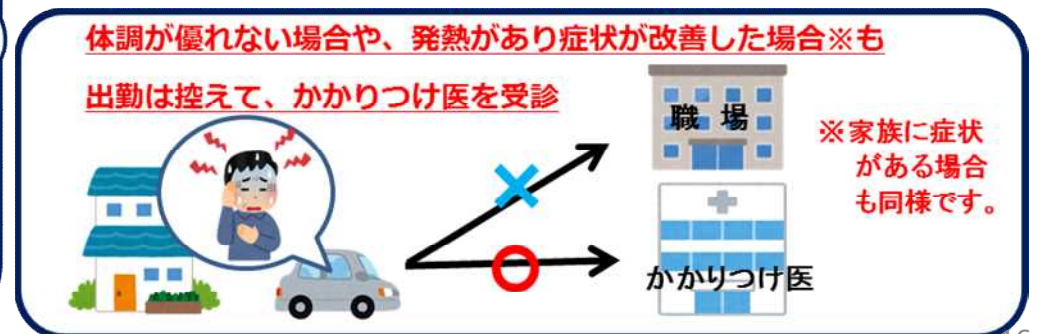
# 集団感染の予防について

～これまでの経験から～

- ★県内では、病院、学校、在宅福祉サービス、飲食店、友人間、スポーツ施設等で集団感染が発生しています。施設関係者が感染すると、施設内や利用者に広がる危険性があることはもちろん、家族や友人へと感染が拡大し、市中感染に繋がるため予防対策が重要であるとともに感染者を早期に発見し、感染拡大防止を行うことが重要です。
- ★新型コロナウイルスは、感染者の鼻咽頭、唾液、便などに存在します。ウイルスは感染して症状が出現する前にまた、無症状で経過し、唾液などにウイルスを排出し、気がつかないうちに、他の人に感染させていくことがあります。以下の点に特に気をつけてください。



各施設では、ガイドラインに沿った運営を実施！

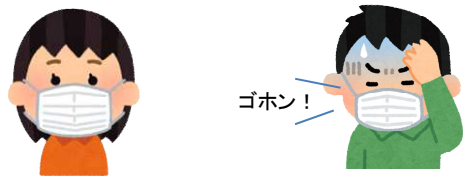




# 新型コロナウイルス感染の予防について

- ★新型コロナウイルスは、感染者の鼻咽頭、唾液、便などに存在し、人から人に感染していきます。
- ★このウイルスの伝播を絶つことが感染拡大防止に繋がります。
- ★ただ、このウイルスは感染して症状が出現する前や無症状で経過する人から気づかないうちに、感染することがあります。以下の点に特に気をつけてください。

**室内ではマスクを着用**する  
咳・咽頭痛・鼻汁など症状のある人は室内・家の中でも必ずマスクを着用する。症状がなくても屋内ではマスクを着用する



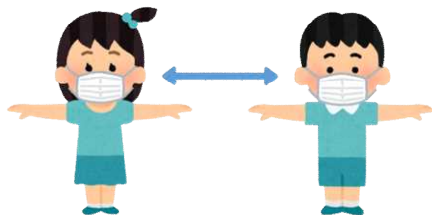
**こまめな手洗いを励行**する  
特に、帰宅時、食事前、トイレ後などに石けんを用いて流水で手洗いをする



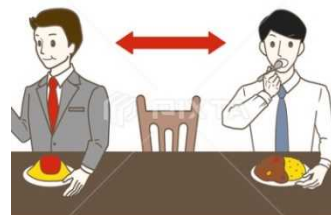
**手指消毒を適宜**する  
手洗いができない時、外出時などでは、飲食前などにアルコールで手指消毒をする



**ソーシャルディスタンスを保つ**  
特に、屋内で密集、密接にならないように人と人の距離をできれば2 m保つ



**飲食時も一定の距離を保つ**  
飲食時はつば、唾液が飛ばない距離を一定保つ  
会話しながらの飲食は避ける



ときどき**部屋の換気**をする  
密閉した空間にならないように換気をする

